

第6次三田市障害者福祉基本計画の中間評価アンケート結果

1. 調査概要

調査目的：第6次障害者福祉基本計画の進捗状況について中間評価を行うため、障害者手帳所持者にアンケート調査を実施し、今後の障害福祉施策を検討する基礎資料として生活の状況や障害者福祉施策に対する認識などを把握する。

調査期間：令和8年5月1日～5月31日

対象人数：1,273名（者：1,045名 児：228名）

回収数：703件（郵送：575件、WEB128件）【回収率：55.2%】

2. 成果指標の評価

5つの基本目標ごとに設定した成果指標うち、アンケート結果が必要な5つについて調査・評価した。

【成果指標の評価基準】

※変動率：当初基準から目標値までの進捗率（（現値－当初基準）÷（目標値－当初基準）×100）で判定

◎：目標を達成した ○：目標は達成していないが改善している（変動率10%以上）

△：変化がない（変動率±10%未満） ▲：悪化している（変動率－10%以上）－：評価困難

	指標名	当初基準 (R4)	目標 (R11)	中間評価 (R8)	評価	変動率 (進捗率)
	基本目標3 就労や社会参加への支援					
1	休みの日などに趣味やスポーツ活動などに参加する人の割合 (18歳以上の障害のある人)	19.8%	25.0%	21.9%	○	+40.4%
	基本目標4 共に生きるまちづくりの推進					
2	「障害のある人への対応や理解が足りている」と答える障害のある人の割合	18歳以上 37.5% 18歳未満 40.2%	18歳以上 70.0% 18歳未満 70.0%	18歳以上 33.5% 18歳未満 34.5%	▲	-12.3% -19.1%
3	地域で行われた行事や活動への参加割合 (18歳以上の障害のある人)	31.2%	50.0%	33.6%	○	+12.8%
	基本目標5 権利擁護と相談体制の充実					
4	「どこに相談したらいいかわからない」と答える障害のある人の割合	18歳以上 18.8% 18歳未満 18.4%	18歳以上 15.0% 18歳未満 15.0%	18歳以上 15.1% 18歳未満 18.3%	○ △	+97.4% +3.0%
5	「障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」と答える障害のある人の割合	18歳以上 59.9% 18歳未満 81.5%	18歳以上 50.0% 18歳未満 60.0%	18歳以上 58.3% 18歳未満 76.1%	○	+16.2% +25.1%

◆アンケート結果（概要）

1. 社会参加の促進

参加割合は目標値に対して着実に推移しているが目標未達であった。

2. 障害のある人への対応や理解の促進

「理解が足りている」とする評価は下落傾向にあり、本計画における最優先改善項目である。一方で、「理解が全然足りないと思う」という否定的な回答は減少しており、極端な認識の偏りは改善されつつあるが、新たに「わからない」とする保留層が増加しており、判断に迷う層が5割存在する。

3. 地域行事への参加者割合の増加

地域行事への参加意欲は緩やかに上昇し一定の成果が見られるものの、目標値には開きがある。

・「会場に行くことが困難」が共通課題

＜参加意向がない層＞ 全体の約半数が「関心がない」と回答

＜参加意向はあるが未参加層＞ 「希望に合う行事や活動がない」理由に回答した人が多かった

4. 相談体制の周知

「どこに相談したらいいかわからない」と答える割合について、障害者は目標値にほぼ到達している一方、障害児は横ばいである。

・「どこに相談していいかわからない」と回答した層のうち、約9割がきいてネットの存在を認識していない。

5. 合理的配慮の提供や障害者の差別解消に向けた理解促進

改善は着実に図れているが、目標達成のペースに対しては停滞気味である。

＜差別場面＞ ・障害者：「就職・職場」が顕著で、ほか「学校・店舗・交通機関」等が多い。

・障害児：「進学・学校」が突出して高く、ほか「まち、近所づきあい・地域行事」等が多い。

＜差別内容＞ ・障害児者共に「差別的な発言を受けた」が最も多い。

3. 自由記述（要点）

・問17（児：問16）：差別や嫌な思いをした具体例

障害者児共に、「社会的偏見・心ない言動」が最も顕著である。特に児では、「教育・保育機関での対応不足」「教育現場における理解不足・指導の質の課題」も問題視されている。

・問18（児：問17）：障害のある人への市民の理解を深めるために必要なこと

障害者：「障害や障害者理解についての広報・啓発の充実」（27.8%）＞「学校における人権教育の充実」（20.0%）＞「障害のある人の積極的な社会への進出」（16.8%）

障害児：「学校における人権教育の充実」（56.6%）＞「障害のある人との市民交流を通じての理解と参加の促進」（25.7%）＞「障害のある人の積極的な社会への進出」（23.0%）

・問19（児：問18）：障害福祉施策の推進に関する具体的な意見（最上位ニーズのみ抽出）

障害者：「移動・ハード面のバリアフリー」（13.7%）、「地域コミュニティ・ボランティア・意識啓発」（13.2%）

障害児：「経済的支援・各種助成制度」「地域社会における理解啓発・社会参加の推進」（23.1%）＞「福祉サービス・基盤の適正化」（20.5%）